
乾いた街

麻田春太

青白い光が

板硝子に屈射し

高層ビルの土煙が

舞い上がる

そこに 私は居る

杖なしでは歩けない 私が居る

すべてワンタッチの世に

遅れを取り戻すことなど

この乾いた街では

無駄なことだ

橙色に乾いた風が

靡いて

赤い光が街を

覆いつくすまで

私は

乾いた街の片隅に

佇んでいた